

地域密着型サービス 運営推進会議 報告書

施設名：グループホームはなんばの里

施設種類：・小規模多機能型居宅介護施設（該当に○）

日時：令和7年9月24日 14時～15時

会場：デイサービスセンターやまもも

出席者
（人数）

利用者代表	0人	有識者	0人
利用者家族	1人	高齢者あんしん支援センター職員	1人
地域住民の代表	2人	出雲市職員	0人
その他（潮風苑施設長、はなんばの里施設長）			2人

（議題）

1. 利用者状況報告
2. 活動状況報告
3. 今後の行事予定について
4. 身体拘束等適正化について

（報告・説明事項）※グループホームはなんばの里に関するもの

利用者の状況報告	・現入所者数、申込者数、入退所状況、入所者状況、（性別、介護度、年齢） ※前回運営推進会議以降入退所なし
活動状況報告	・8月～9月に実施した主な行事・活動の報告 〔はなんばの里夏祭り、トリニティカレッジ出雲校実習受入、おはぎ作り〕
今後の行事予定について	・運動会（10月10日）、法人合同防災訓練（10月23日）、消防避難訓練（11月） 窓ふきボランティア（11月）
身体拘束等適正化委員会の設置について	・身体拘束等の状況報告（身体拘束等廃止委員会（詰所会議）からの報告）

●議題1～3（利用者状況・活動状況・今後の行事予定）

（会議の内容…評価、要望、意見、助言等）

○ 地域住民の代表より

職員が不足していて行事などが十分に行えないということであれば、ご家族を招いて手伝っていただくということはどうですか。

⇒ 施設より

現在はコロナウイルスが5類になったとはいえ、法人内の高齢者施設では、ご利用者と直接多くの方が関わるような行事やボランティアの受け入れは行っていません。こども園はボランティアの方に来て教えて頂いたりと直接的なかわりを持たれています。徐々に考えていかないといけないと思いますが、実際にはコロナウイルスが流行り、職員も感染したりしている状況ですので、当面は難しいかもしれません。

○ 地域住民の代表より

コロナウイルスがまだまだ流行っていますが、面会の制限など変更されたことはありますか。また、出雲市から何か指導的なものがありますか。

⇒ 施設より

面会時間や一度に入室する人数、時間帯など変更はしていません。出雲市からもコロナは5類になっていますので指導があるということはありません。ただ、感染者数が増えているという情報提供はあります。

○ あんしん支援センター職員より

来月の予定で合同防災研修とありますが、こういったことを対象とした訓練を行いますか。

⇒ 施設より

コロナが発生するまでは法人の施設合同で訓練を行っていました。昨年度から合同での訓練を再開し、今年度は洪水・土砂災害を想定した訓練を行う予定です。昨年度は地震・津波を想定した訓練を行いました。この二つの訓練を交互に行っています。はなんばの里や隣のデイサービスセンターやまももは、洪水や土砂災害が発生した時の第一避難所は田儀にある風の子学習館にしています。避難が長引くようなことがあれば、第二避難所である潮風苑に避難することになっています。体調不良者を除くご利用者と職員が実際に車に乗り風の子学習館まで移動します。訓練の前に法人の全職種の職員も研修を受けています。研修を活かして訓練に臨む予定です。

●議題4（身体拘束等適正化について）

○ 施設より身体拘束廃止委員会（詰所会議）の報告

- ・身体拘束廃止委員会（詰所会議）から別紙のとおり身体的拘束等の状況報告を行った。

別紙

■身体拘束の状況：緊急やむを得ない場合を含め、全く行っていない。

■教育・研修等の開催：8/9（水）に詰所会議にて身体拘束等防止及び高齢者虐待防止に関する研修を実施

■日常的ケアに対する取り組みと見直し：毎月、詰所会議にて高齢者虐待、不適切なケアについて話し合いの場を持ち、翌月の月目標として挙げ取り組んでいる。また、日常的ケアに対する見直しを基に日々のケアを全職員で振り返り、適切なケアへと繋げていくようにしている。

【9月の詰所会議時に話し合った内容について】

先月（8月）の月目標は『トイレでパジャマへの更衣を行わないようにする』でした。夕食後、排泄介助のついでにパジャマに交換している職員もいましたが、自分はトイレでパジャマに着替えるのかと

いう話し合いになり、更衣介助は居室で行うことを徹底しました。

介護現場では、ご利用者の生活行為を業務と見てしまうことが少なくないと思います。何かのついでに本来すべき場所でないところで介助してしまっているというようなこともあるのではないかと思います。

その背景には、人員不足で時間内に業務が終わらないことも原因の一つかもしれません。ただ、衛生的にも綺麗だとは言えませんし、認知症をお持ちの方が、これから夜になり、眠る時間を迎えるということを理解するためには、ゆったりとした時間を共有し、居室でゆったりと会話しながらパジャマに着替えていただくことがご利用者の安心につながり、必要な介助なのではないかと思います。

また、はなんばの里は「より家庭に近い環境で」と理念にも掲げています。それぞれの自宅環境に応じたケアができるのが理想ですが、せめて自分たちが「家では決してしないこと」をご利用者のケアの中にもしっかりと取り入れて、よりよいケアを目指していけたらよいと感じます。

職員は、トイレでのパジャマ更衣をやめ、居室でゆったりとはいかないかもしれませんが、更衣介助を継続して行っています。「当たり前のことが当たり前ができる」そんな考え方ができるようになりたいと思います。

○ あんしん支援センター職員より

詰所会議にて身体拘束等防止及び高齢者虐待防止に関する研修を行ったとありますが、具体的にはどんな研修をされましたか。あんしん支援センターでも研修が義務化され、他の事業所がどのような内容で研修を行っておられるか参考にしたいと思っています。

⇒ 施設より

いずれの研修も基礎的なことを振り返るという形で行っています。定義やマニュアルについての確認を行っています。普段、この会で不適切なケアをなくしていくという取組についてお話しし皆さんの意見を頂いていますが、案外で不適切だと思っていたことが虐待に相当しますといった事例も挙げさせてもらい理解に努めるようにしました。不適切ケアの段階で芽を摘んでおかないと虐待に発展したり、思わぬところで当たり前のように身体や心の拘束を行ってしまったりということが考えられます。他の事業所では、法人で取り入れた配信動画を使って研修を行ったりしています。利用者と職員との人間関係や職員が利用者をどう呼んでいるのか振り返り、保護者的介入になっていないか、自立支援型での介護を行えているかどうか確認し、ケアへとつなげるようにしています。

(その他)

○ 次回開催予定日 デイサービスセンター やまもも 11月26日(水)